

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	
施 設 名	札幌市こどもの劇場（やまびこ座）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	22,198	(千円)
	公 演 事 業	15,071 (千円)
	人 材 養 成 事 業	4,798 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,329 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	やまびこ座・こぐま座野 外人形劇シリーズ	令和4年6月～ 令和5年2月	演目:「コロポックル・シンパヤ」他 スタッフ:沢則行 他 出演者:人形劇講座参加者(小～大 学生) 他	目標値	2,530
		札幌市こどもの劇場や まびこ座・札幌市こど も人形劇場こぐま座・ 中島公園		実績値	3,055※
2	札幌国際人形劇フェステ ィバル	令和4年7月～ 令和5年3月	演目:「快傑ゾロ」他 出演者:アルファ人形劇場(チェコ) 他 観客者数:964人(7～9月実施分ま で835人、春の特別公演38人・関連 事業「アフタートーク」21人・児童 会館巡回公演70人)	目標値	1,840
		札幌市こどもの劇場や まびこ座・札幌市こど も人形劇場こぐま座・ 児童会館		実績値	964※
3	やまびこ座プロデュース 児童劇公演	令和4年5月	演目:「劇のたまご～アラジンと魔法 のランプ」 スタッフ:清水友陽(劇団清水企画) 他 出演者:札幌座、シアターZ00企画	目標値	480
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	170※
4	障がい児と創るパペット シアタープロジェクト・ アイヌ人形劇「北のおば け箱」	令和5年2月	演目:「北のおばけ箱」 スタッフ:斎藤歩 他 出演者:人形劇講座参加者(小～大 学生) 他	目標値	340
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	316
5	伝統芸能『座・競演シリー ズ』『座・競演～次世代へ継 ぐ伝統人形芝居』	令和4年10月・ 令和5年3月	出演者:八王子車人形西川古柳座 他 観客者数:463人(10月札幌会場253 人※、3月福島会場210人)	目標値	740
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座・福島県		実績値	463※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「児童劇団」育成事業 (児童演劇講習会、やまびこ座遊劇舎、劇☆やまびこ座 Youth)	令和4年5月～ 令和5年2月	演目:「オズの魔法使い」他 講師:清水友陽(札幌座、劇団清水企画)、佐藤颯(東区市民劇団オニオン座)、磯貝圭子(札幌座)	目標値	入場者数:200人(発表会) 参加者数:60人
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	入場者数:285人(発表会) 参加者数:32人
2	人形浄瑠璃育成事業(中高生のための人形浄瑠璃講習会、人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会)	令和4年5月～12月	講師:西川古柳(八王子車人形西川古柳座)、竹本 信乃太夫(弥乃太夫会)、鶴澤 弥栄(弥乃太夫会) 講師補助:さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座	目標値	入場者230人(発表会) 参加者数45人
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	入場者113人(発表会) 参加者数43人
3	人形劇裾野拡大事業(初心者のための人形劇講座、児童会館人形劇クラブ、札幌人形劇祭)	令和4年4月～ 令和5年3月	講師:竹田洋一(人形劇団えりっこ)他 スタッフ:福田恭一 他 入場者数:901人 参加者数:244人(延べ1,484人)	目標値	入場者700名 参加者数220名
		札幌市こどもの劇場やまびこ座・札幌市こども人形劇場こぐま座・児童会館		実績値	2,385人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形劇巡回公演事業	令和4年9月～ 令和5年3月	札幌市内児童会館(20公演1,030人) 千歳児童館(3公演133人) 福島県(福島会場)延べ14人・発表 会入場者270人(郡山会場)延べ153 人・発表会入場者210人)	目標値	2,200人
		札幌市児童会館 他25ヶ所		実績値	1,810人
2	アウトリーチ活動(近隣 小学校人形劇体験、養護 学校・特別支援学校連携 人形劇体験、伝統芸能体 験)	令和4年6月～ 令和5年3月	対象:札幌市立元町北小学校3年生・ 札幌市立資生館小学校4年生、北海 道拓北養護学校小学部6年生 他 講師:安尻美代子 他	目標値	1,030人
		札幌市立元町北小学校 他7ヶ所		実績値	1,387人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>やまびこ座・こぐま座は、子どものための専門劇場として、子どもと地域のための「子ども文化」を守り、はぐくみ、次世代の担い手育成に向けて新たな挑戦を続ける「地域の文化拠点」としての使命を果たすため、多岐にわたる公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を組み立てて運営している。公演事業での観客や普及啓発事業での参加者が人材養成事業に参加し、経験を積み重ねて公演の新たな担い手となるというサイクルを回すことで、将来にわたり持続可能な地域の文化創出につなげていることが、やまびこ座・こぐま座での事業の特色といえる。</p> <p>令和4年4月～11月まで新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした劇場ガイドラインの座席数制限等があったことや地域での感染拡大状況の影響を受け、この期間に実施予定だった公演事業の多くは当初想定より来場者数を制限せざるを得なかった。</p> <p>しかし、1年間を通じてどの事業でも、これまでの創造活動を止めない工夫や新たなアイデアや芸術性を取り入れて創造的な作品を生んだ成果を発揮して計画を進めることができた。特に公演事業4（障がい児と創るパペットシアタープロジェクト・アイヌ人形劇「北のおばけ箱」）では、劇中に「ムーブアラウンド形式」の手話通訳を取り入れたことによって、普段劇場にはあまり足を運ぶことのない聴覚障害者などの新たな観客層にも多く観ていただき好評を得ることができた。障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる作品創りと観覧機会の提供、舞台芸術に参加・創造するための環境整備と関係機関との連携をより深めることができたといえる。また、人材養成事業3（人形劇裾野拡大事業）の「第51回札幌人形劇祭」には前年度の24劇団を上回る29劇団の申込（劇団員の新型コロナウイルス感染のため参加取り止め1劇団含む）があり、コロナ禍でも各劇団が工夫をして作品創造に継続して取り組んだこと、児童から若年層を対象とした人形劇講座や児童会館等での人材養成事業の成果を発揮することができた。いずれにおいても、子どもが文化芸術にふれる機会を継続的に確保し、実演芸術を守り育てていくことで、地域の文化拠点として特色ある事業展開を推し進めることができたといえる。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>やまびこ座・こぐま座は、開館以来、鑑賞の場というだけではなく、子どもの文化体験や市民劇団による創造の「拠点」となる施設として運営している。人材養成を中心にさまざまな公演や普及啓発事業を総合的に展開することによって、継続的な市民劇団の育成、地域の子どもの文化の醸成、子どもの劇団等の表現活動グループの輩出につなげている。人形劇や児童劇をとおして市民が参画できる場を創出し、地域へ還元する仕組みは、文化的かつ社会的に大きな意義があるといえる。加えて、劇場による市民劇団と観客双方が高め合い共に成長できる仕組みによって、実演芸術の質的向上と機会の充実に寄与している。</p> <p>人材養成事業においては、小学生から一般までさまざまな年代や経験をふまえて対象を設定し、劇場職員が市民に寄り添い導くことで途切れることのない支援を行い、その上で個人の成長を促して将来の札幌の文化の発展につながる継続的なサイクルを形成している。また、地元の子どもたちとアマチュア市民劇団や専門アーティスト等が共に歩む形での事業展開を継続して進められたことで、札幌ならではの「子ども文化」をはぐくみ、これが普遍的な考え方として今後も市民に広く浸透・定着していくことは文化的に大きな意義があるといえる。</p> <p>令和4年度の助成事業によって地元の子どもたちがアマチュア市民劇団や専門アーティストと協働する取組がさらに進められたことで、また地域全体の文化芸術の裾野を拡げることにつながった。助成事業を通じて様々な市民が専門アーティストや関係機関とつながり、今後の新たな取組が生まれるきっかけとなっていることから、次年度以降の経済波及効果が期待できるといえる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする劇場ガイドラインによって4~11月まで座席数制限等があったことや地域での感染拡大状況の影響を受け、この期間に実施予定だった「札幌国際人形劇フェスティバル（海外特別公演・夏の特別公演）」「やまびこ座プロデュース児童劇公演」「伝統芸能『座・競演シリーズ』（札幌公演）」の3事業は当初想定より来場者数を制限せざるを得ず、その影響で入場者・参加者数の目標達成には至らなかった。しかし、令和3年度に26回中21回の公演が中止となった「野外人形劇シリーズ」は、令和4年度計画した全ての公演を実施し、様々な制約がある中でも来場者も目標を大きく上回ることができた。また、「障がい児と創るパペットシアタープロジェクト」も目標の9割に近い入場者数となり、今後の事業展開へつなげる結果となったといえる。

- ① (目標) 野外人形劇シリーズ観客動員数 2,500人以上 (実績) 3,055人 (達成率: 120.75%)
6~9月に実施した野外公演では、参加人数に制限はあったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防策を十分に講じた上で実施できた。2月に実施した野外公演では開催時期がさっぽろ雪まつりと同時期に行ったこともあり、札幌市内外の観客を動員することができた。
- ② (目標) 入場者数の1回公演の平均人数 90名以上 (実績) 68.3人 (達成率: 75.9%)
新型コロナウイルス感染症の拡大状況や客席制限等により未達となった。
- ③ (目標) 各公演事業の収益率 25%以上 (実績) 22.2% (達成率: 88.8%)
新型コロナウイルス感染症の拡大状況や客席制限等で入場料等収入が当初予定より減り、未達となった。
- ④ (目標) 観客アンケートの満足度 90%以上 (実績) 92% (達成率: 102.2%)
特に「北のおばけ箱」に対する満足度が高く、「楽しさの中にアイヌの文化に触れる機会ともなりよかった」「手話通訳が中に入ること、内容がさらに伝わる部分があり聞こえる人も聞こえない人もみんな楽しんでるいい取り組みだと思った」という感想をいただくことができた。

●人材養成事業

地域に根付いた劇場として、「人形劇」・「児童劇」・「伝統芸能」というさまざまなジャンルの人材養成事業を行い、各世代で創造的な活動ができる「文化拠点」を作り上げることができた。事業終了後も、参加者同士で集まり次の公演に向けて作品作りを行う場面も見られ、当該事業の効果を感じることができた。

- ① (目標) 「児童演劇講習会」「人形浄瑠璃講習会」事業参加者から指導者を各1名以上輩出
(実績) 「児童演劇講習会」参加者3名 (達成率 300%) 小学生対象の児童演劇講習会「遊劇舎」の指導者1名、中・高校生対象の児童演劇講習会「劇☆やまびこ座 YOUTH」の発表公演2名出演
「人形浄瑠璃講習会」参加者3名 (達成率 300%) 「アウトリーチ活動」の講師として参加
- ② (目標) 次世代の事業への継続参加 各事業2名以上
(実績) 「劇☆やまびこ座 YOUTH」への前年度「遊劇舎」卒業生1名参加 (達成率 50%)、「児童演劇講習会」への前年度「劇☆やまびこ座 YOUTH」卒業生の参加なし (達成率 0%)、「人形浄瑠璃講習会」「人形劇講習会」への「ざ・じょうるりユース」卒業生各2名参加 (達成率 200%)
- ③ (目標) 地域の広報媒体へ各事業1回以上掲載 (実績) 1回以上 (達成率 100%)
コミュニティFM「さっぽろ村ラジオ」、北海道や福島県の新聞に公演情報等が掲載された。
- ④ (目標) 「人形浄瑠璃講習会」「義太夫講習会」への継続参加 前年度参加者の80%以上
(実績) 「人形浄瑠璃講習会」93%「義太夫講習会」87%「ざ・にんぎょうじょうるりユースクラス」100%
- ⑤ (目標) 異年齢交流促進についての満足度 目標 80%以上
(実績) 5段階評価ではなく、「異年齢交流」に対する自由記述式とした。劇☆やまびこ座 YOUTH 参加者からは「劇☆やまびこ座 YOUTH」公演に参加した「児童演劇講習会」参加者に対し、「共に公演作品を作ることがおもしろかった」という感想があった。
- ⑥ (目標) 札幌人形劇祭参加劇団数 15劇団以上 (実績) 28劇団 (達成率 186.7%)

●普及啓発事業

地域に根付いた劇場として、様々な活動を展開することができた。特に、講師として劇場職員の他に札幌市内のアマチュア人形劇団やアーティスト、講習会事業参加者等を指導者として1名以上派遣して地域で活躍する人材の積極起用と育成にも取り組んだ。地域の学校や関係機関からの様々な要望に対応できる「強み」として、今後も人形劇等を通じた文化の街づくりに寄与する。

- ① (目標) 人形劇巡回公演(出張公演)回数 過去平均の30%増(45回以上を目標)
(実績) 過去平均の-17.1%減(29回実施) (達成率 82.9%)
- ② (目標) ワークショップ実施回数 過去平均の15%増(16回以上を目標)
(実績) 過去平均の28.6%増(18回実施) (達成率: 190.7%)
- ③ (目標) 障がい児の体験機会 目標 13回 (実績) 15回 (達成率: 115.4%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●公演事業

令和4年4～11月まで新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする劇場ガイドラインによる座席数制限等があったこと、札幌市内の感染状況によって観劇者数にも影響があったが、日程等は概ね当初の計画通り実施することができた。11月に劇場ガイドラインによる座席数制限要件が緩和されたことにより、それ以降の公演事業については概ね適切に進めることができた。

●人材養成事業

当初の計画通り進めることができた。事業期間については一部の事業で公演事業や普及啓発事業と重複することもあったが、各事業担当職員で総合的にスケジュールや内容を調整したことで、事業参加者に過度な負担となることはなかった。全ての人材養成事業で成果発表公演を実施でき、事業参加者の達成感や満足度を高めることができたのは成果だと考える。

●普及啓発事業

学校と日程等を調整する中で当初の計画と日数等が変更となった部分もあったが、概ね計画通り進めることができた。令和4年度も札幌市内の児童会館や小学校・中学校・特別支援学校へ出向き、人形劇制作やパフォーマンスの披露、人形浄瑠璃のワークショップなど行い子どもたちに豊かな体験機会を提供することができた。また、中学校の特別支援学級や養護学校児童を対象に、地域にある劇場を「訪れること」でより充実した体験活動を進めることもできた。様々な体験機会を子どもたちに提供したいという教育現場と綿密に打ち合わせを重ね、協力体制を築くことができたことは大きな成果だと考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については、10事業のうち6事業が計画と乖離する結果となった。

収入においては、令和4年4～11月まで続いた劇場ガイドラインによる客席数制限、札幌市内の新型コロナウイルス感染症の拡大状況の影響を都度受け、当初の計画より入場料収入が伸び悩んだ。

支出においても、収入とのバランスを鑑み、劇場で管理保管する材料の在庫の有効活用や楽曲使用、一部事業の講師として外部ではなく劇場職員を派遣したこと、共催者負担金を有効活用したことなどにより、当初の計画より費用を抑えられる結果となってしまった。

人材養成3のみ当初の計画より費用が多くなったが、これは児童会館人形劇クラブの活動において制作した劇の内容に照らして必要な制作物が多くなったことや原材料費の急激な高騰によるものと考えている。差分については人材養成1・2の余剰分を充当することとし、人材養成事業に対する助成金額（交付申請書の金額）の枠内におさめた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

やまびこ座・こぐま座は、子どものための専門劇場として、子どもと地域のための「子ども文化」を守り、はぐくみ、次世代の担い手育成に向けて新たな挑戦を続ける「地域の文化拠点」として様々な事業を行った。

令和4年度は、令和3年度に事業実施直前に緊急事態宣言が発出され中止となった「サイトスペシフィック・パフォーマンス」（公演事業1）を6月に実施することができた。やまびこ座・こぐま座の人材養成事業に参加する団体や、専門アーティスト・関係機関も多く参加し、地域に根付いた劇場として、長年に渡り行ってきた事業から生まれた人とのつながりを通して創りあげた舞台は、多くの市民に観劇の楽しさと喜びを提供することができた。また、劇場のある「中島公園」という自然豊かなフィールドを存分に活用し、野外で人形劇公演を行うことで、これまで人形劇を見たことがなかった市民の興味関心を高め、新規の観劇者獲得にもつながった。

野外人形劇 25、26日に札幌・中島公園で

「コロポックル・シンパヤ」観客も参加



観劇が複数のステージを巡って楽しむ野外人形劇「コロポックル・シンパヤ」が、中島公園インネブ（4つの物語）が25、26の両日、札幌市中島公園内で上演された。総勢50人の子役や劇団員らが熱演し、参加者は登場人物と一緒に園内を巡りながら楽しんだ。

「コロポックル・シンパヤ」は、中島公園インネブ（4つの物語）が25、26の両日、札幌市中島公園内で上演された。総勢50人の子役や劇団員らが熱演し、参加者は登場人物と一緒に園内を巡りながら楽しんだ。

※令和4年6月18日（土）北海道新聞 掲載

野外人形劇 観客も主役

札幌・こぐま座45周年記念



屋上に巨大なフクロウ人形も登場した野外人形劇のクライマックスの一場面—26日（打田達也撮影）

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会の主催、同公園内にある札幌市こぐま座人形劇場で、こぐま座の開館45周年を記念して昨年企画されたが、新型コロナウイルス感染症拡大で延期され、今回の開催となった。

西日もともより人が参加。観客は、山賊にさらわれたコロポックルの姫を助けるため、4組に分かれて案内役のコロポックルとともに公園内の4ステージを巡った。「ピフキオ」のステージでは、公園内の池から魚が

現れるなど大がかりな仕掛けもある。同公園内にも上演の間に参加者はレジンヤシトをあげ、菓子を食べるなど「ニコニコ」気分も味わった。

クラマックスで、こぐま座横にある中島児童遊園の屋上に巨大なフクロウ人形が登場する。と、子どもたちは歓声を上げて喜んでいった。26日は家族4人で参加した札幌市道井野小5年の青川美音君は「公園全体を使って、すごく楽しかった」と話した。

公園巡り「姫」を救出

観客が複数のステージを巡って楽しむ野外人形劇「コロポックル・シンパヤ」が25、26の両日、札幌市中島公園内で上演された。総勢50人の子役や劇団員らが熱演し、参加者は登場人物と一緒に園内を巡りながら楽しんだ。

（富木 穂）

※令和4年6月27日（月）北海道新聞 掲載

「ソーシャルインクルージョン」をテーマとした「障がい児と創るパペットシアタープロジェクト・アイヌ人形劇『北のおばけ箱』」（公演事業4）では、「演劇」「人形劇」「手話」など多ジャンルかつ異年齢の市民と共に舞台創りに取り組んだ。児童デイサービスに通う発達障害のある小・中学生とやまびこ座・こぐま座の人材養成事業に参加している小学生から大学生までの出演者は、舞台美術制作ワークショップや稽古を通じて交流を深めたことで仲間として互いの存在を認め合い、舞台公演時も自然なフォローアップができていた。障がいのある人とない人が具体的に接し関わり合う中で互いをよく知り合うという体験は、次世代の文化創造を担う市民の心理的バリアを取り除いた。また、アイヌの物語を題材にしたオリジナル人形劇を障がいの有無にかかわらず楽しめる舞台にするという取組は、チラシやSNSを活用した広報に加えて出演者や関係者からの口コミによって広がり、

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「座・競演」（公演事業5）では、札幌・東京・福島で伝統芸能である「人形浄瑠璃」に取り組む若年層の担い手を中心とした公演を2都市（札幌・福島）で行った。また、福島では当該公演の前日に地元の子どもたちを対象とした体験型のワークショップも実施した。やまびこ座で長く取り組んできた被災地復興支援活動をきっかけにつながった「復活！高倉人形プロジェクト実行委員会」、国の重要無形民俗文化財に指定されている八王子車人形西川古柳座と札幌で人形浄瑠璃の公演を行う唯一の一座であるさっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座による公演によって、同世代の若者たちの興味の拡がりや新たな可能性の発見にもつながったと考える。

また、令和4年度は「人形劇裾野拡大事業」（人材養成事業3）の「児童会館人形劇クラブ」の活動に、児童会館人形劇クラブの子どもたちが一堂に会して人形劇の連続公演を行い、相互の交流を深める機会として「札幌市児童会館人形劇フェスティバル」を設けた。これによって子どもたちの新たな人形劇制作のモチベーションや文化芸術活動への参加意欲を高めることに成功し、次世代の担い手である中・高校生を対象とした人材養成事業への継続参加の促進にもつながった。

そして「児童劇団」育成事業（人材養成1）からは、次世代の担い手育成に劇づくりを通してかかわる参加者や指導者が育ってきている。

子どもたちの興味関心の高まりに即応できる受け皿が様々な形で準備されていることや、若年層のチャレンジをバックアップできる体制が整えられていることがやまびこ座・こぐま座が人材養成に長く取り組んできた強みである。令和4年度もその強みを十分に発揮し、人形劇等を通じて札幌の文化芸術の発展に寄与することができたといえる。

今後もやまびこ座・こぐま座では毎週末の公演の他に「野外人形劇」や「国際人形劇フェスティバル」等のような特別公演を実施し、人材養成や普及啓発事業を継続的に行うことで、様々な文化に触れられる地域の劇場として、実演芸術の振興・文化芸術の発展に寄与していく。

（5）持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

やまびこ座・こぐま座は、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が指定管理者として管理運営を行っている。当財団は、青少年の健全育成や青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援等を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与することを基本理念として創設された財団である。

両劇場は「夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり」として、劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを支援し、人や地域の活性化につなげることを目標に地域活動等事業を運営してきた。

職員の人材については、専門職である舞台技術者のみ異動の対象とはならないが、それ以外の職員は財団内での人事異動があるため、専門的な指導ができる人材や子ども文化をマネジメントすることのできる人材を常に確保できるような職員の人材育成計画の策定を喫緊の課題として、舞台技術に関する研修、人形劇等の指導のための技術習得研修、育成ノウハウを養うための研修等を、当財団の人材育成計画に沿って実行している。

令和4年度は財団内の職員が参加できる人材育成研修「人形劇ゼミナール」を実施し、他セクションの職員の育成にも取り組んだ。将来を見据えて、劇場の事業を担うことのできる人材を広く育成することを進めた。

また、コロナ禍であっても、市民ボランティアの活動も止めることなく進め、地域人材の確保に努めた。市民

ボランティアは読み語り事業や指人形制作等を積極的に行い、職員とともに劇場運営の一端を担っているといえる。

財務面においては、指定管理費の5割程度が人件費、その他が各利用料金等を合わせた施設の維持管理費用となる。それに、施設の利用料金公的助成金の獲得やサポーター制度（企業、個人からの寄付）、公演の上演収入や講座等の指導料収入を加えて事業用の各費用を捻出することとなる。

令和4年度は人件費増とコロナ禍で施設の維持管理費や原材料費の高騰が続いたことからマイナス計上となった。次年度以降は、劇場利用から遠のいた観客や利用者層が再度来館する機運を高めて公演の上演収入や講座等への参加料・受講料収益を増やし、収支のバランスを取っていくことが課題である。

項 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備 考
指定管理費	69,616	70,520	73,590	72,176	
利用料金収益	5,118	3,823	4,386	3,554	
その他収益	44,510	8,460	22,553	34,768	入場料、指導料、助成金収入等
収益計 (A)	119,244	82,803	100,529	110,498	
人件費	48,089	31,989	36,596	41,125	
その他費用	70,822	43,405	65,485	66,616	
法人事業費	3,049	2,032	2,408	2,928	
費用計 (B)	121,960	77,426	104,489	110,669	
増減額 (A) - (B)	▲2,716	5,377	▲3,960	▲171	